

## EU 包装資材に関する新規則

[FreshPlaza 2024年4月25日](#)

水曜日(24日)、欧州議会は、EUにおける包装をより持続可能なものにし、包装廃棄物を削減するための新しい措置を採択した。増え続ける廃棄物に対処し、域内の市場ルールを調和させ、循環型経済を促進することを目的としたこの規制は、賛成476票、反対129票、棄権24票で承認された。

### 包装資材を減らし、特定の種類を制限

これらの規則は、欧州議会がEU理事会と暫定的に合意したもので、包装の削減目標(2030年までに5%、2035年までに10%、2040年までに15%)が含まれており、EU諸国には特にプラスチック包装廃棄物の量を減らすことが求められている。不要な包装を減らすために、複数の商品の一括包装、輸送用及び電子商取引用の梱包では空きスペースの率が最大50%に設定されている。また、製造業者と輸入業者は、包装の重量と体積を最小限に抑える必要がある。

2030年1月1日から、特定の使い捨てプラスチック包装が禁止される。これらには、未加工の生鮮果実・野菜の包装、カフェやレストランで充填及び消費される食品や飲料の包装、1回分の個別包装(調味料、ソース、クリーム、砂糖等)、宿泊施設の洗面用具等の小包装、及び非常に薄いビニール袋(15ミクロン未満)が含まれる。

健康への悪影響を防ぐために、この条文には、食品に接触する包装におけるいわゆる「永遠の化学物質」(パーフルオロアルキル物質及びポリフルオロアルキル物質、略称PFAS)の特定の閾値を超える使用の禁止が含まれている。

### 再利用と詰め替えの選択肢を消費者向けに奨励

アルコール飲料及びノンアルコール飲料(牛乳、ワイン、芳香族ワイン、スピリッツ等を除く)の包装、輸送用及び販売用の包装、並びに複数商品の一括包装については、2030年の具体的な再利用目標の設定が予定されている。加盟国は、一定の条件下で、これらの要件から5年間の免除を認めることができる。

飲料や持ち帰り用食品の最終的な提供者は、消費者が自分の容器を持参するという選択肢を用意することが必要になる。また、2030年までに商品の10%を再利用可能な包装形態で提供するように努めるよう求められる。

### リサイクル可能なパッケージ、より良い廃棄物収集とリサイクル

新しい規則では、すべての包装資材(軽量木材、コルク、繊維、ゴム、陶器、磁器、蠟を除く)は、厳しい基準を満たしてリサイクル可能である必要がある。

対策には、プラスチック包装における再生原料の最少含有量目標と包装廃棄物の最少リサイクル目標(重量ベース)も含まれる。2029年までに、使い捨てのプラスチック製及び金属製の飲料容器(3リットル以下)の90%を分別回収する必要がある(預り金方式または回収目標を確実に達成するその他の方法による)。

ラポルトウール(公式な報告者)であるフレデリック・リース議員(欧州刷新会派所属、ベルギー選出)は、「EUは環境法で初めて、使用する材料に関係なく包装を削減する目標を設定しようとしている。新しい規則は技術の進歩を促進し、零細企業に対する免除を盛り込んでいる。食品包装における『永遠の化学物質』の禁止は、ヨーロッパの消費者の健康にとって大きな勝利である。我々は今、すべての産業部門、EU諸国、及び消費者に対し、過剰包装との闘いにおいてそれぞれの役割を果たすよう呼びかける」と述べた。

### 次のステップ

協定が発効するためには、(欧州議会のほか)EU理事会も協定を正式に承認する必要がある。

## (関連記事) 業界団体が包装規制を批判

[EUROFRUIT 2024年4月25日](#)

### 業界団体は、規則が食品の安全性、食品ロス、廃棄物防止への焦点を欠き、貿易上の懸念を招くと批判

米国に本拠を置く「持続的な食品包装のための連盟」(ASPF: Alliance for Sustainable Packaging for Foods)は、欧州議会で採択された新しい包装規則は「貿易と食品安全に深刻な懸念を引き起こす」としている。

同団体は声明で、この規則が今年中にEU理事会で承認されれば、「3,700万人以上のヨーロッパ人が質の高い食事を2日に1度口にする余裕がない時」に、世界のサプライチェーンと食料安全保障にほぼ確実に悪影響を与えるだろうとしており、また、新しい規則には、消費者が利用できる健康的な食品の選択肢が減るなどの二次的な影響があると指摘している。(以下、特記した場合を除き「」は同団体の声明)

「包装及び包装廃棄物規制(PPWR)は、生鮮食品の品質、安全性、鮮度を維持するために科学的に設計された使い捨て包装の選択肢さえ禁止している。」

「これ(このような包装が使用されること)は、生の食品やすぐに食べられる食品は適切に包装されていないと、腐敗したり、損傷したり、汚染されたりするリスクがあるためである。それは食品廃棄物の増加につながり、他の複数の地域で実施された調査によると、より耐久性のある種類のプラスチックの使用が増える可能性がある。」

PPWRは堆肥化よりもリサイクル性を優先しており、このため生鮮食品メーカーの選択肢は限られていると警告している。

「禁止の例外は個々のEU加盟国に委ねられており、多くの生鮮食品の安全性と許容される包装の種類に関して、各国の規制のパッチワーク(継ぎはぎ)になる。」

「これは、調和のとれたルールを作る代わりに、EU域内及び(他国による)EUとの貿易に障害を生み出し、EU単一市場を弱体化させるだろう。」

ASPFは、EUの規制当局や加盟国政府に対し、こうした深刻な食品安全と貿易上の懸念に対処するよう、引き続き働きかけていくとしている。

「生鮮食品セクターには大きな課題が待ち受けている。食品サプライチェーンの持続可能性を高めるには、使い捨ての包装廃棄物を最小限に抑えながら、食品の安全性、品質、入手のし易さ及び公衆衛生に妥協しない、証拠に基づくアプローチを採用することが不可欠である。」

このニュースを受けて、国際青果物協会(IFPA)の最高科学責任者でもあるASPFのマックス・テプリツキー会長は、廃棄物を最小限に抑え、使い捨てのプラスチック包装に代わるものを見つけることは「我々全員が支持できる目標だ」と述べた。

同会長の話「実行可能な代替品がなければ、プラスチックや堆肥化可能な包装の禁止は、食品の安全性を脅かし、食品の品質を損ない、食品廃棄物を増加させる。これらはすべて、消費者と環境にとって等しく重要な要素である。」

欧州議会で採択された新しい包装規制が、消費者の安全と栄養価の高い食品へのアクセスを優先しておらず、貿易と持続可能性への具体的な影響を考慮していないことに失望している。

この結果を受けて、IFPAは、使い捨て包装に代わる安全で持続可能な代替品を見つけるために必要なイノベーションへの投資と賢明な包装規制を引き続き提唱していく。」

執筆者: カール・コレン